

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 6 日現在

機関番号：36102

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730142

研究課題名 (和文) スコットランド啓蒙の経済思想の歴史的背景と特質—スミスとヘップバーンを中心に

研究課題名 (英文) The Historical Contexts and Characteristics of the Economic Thought in the Scottish Enlightenment: Adam Smith and Thomas Hepburn

研究代表者

古家 弘幸 (FURUYA HIROYUKI)

徳島文理大学・総合政策学部・講師

研究者番号：30412406

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学 経済学説・経済思想

キーワード：経済学 経済思想 市場経済 経済史 思想史 西洋史 哲学

1. 研究計画の概要

啓蒙時代の 18 世紀スコットランドにおける利害衝突のいくつかの事例をもとに、アダム・スミスの『国富論』(1776 年)と、トマス・ヘップバーンの『オークニー諸島の貧困』(1760 年)を当時の文脈に位置づけながら、スコットランド啓蒙の経済思想の歴史的背景と特質の一端を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1) 6 回の研究報告をもとに、トマス・ヘップバーンの著書『オークニー諸島の貧困』(1760 年)についての国内外初の研究論文を執筆し、「最果ての啓蒙—トマス・ヘップバーンの経済思想と 18 世紀オークニー諸島 (1) (2)」として『経済学論究』に出版した。また英文で、‘Working the Peripheral into the Picture: The Case of Thomas Hepburn in Eighteenth-Century Orkney’ との題目で論文を *The European Journal of the History of Economic Thought* に投稿して査読を通過し、修正を完了した。これらの論文により、『オークニー諸島の貧困』を当時の文脈に位置づけ、本研究の課題である「スコットランド啓蒙の経済思想の歴史的背景と特質」を明らかにする一環とすることができる。2008 年と 2009 年の夏季に英国のエディンバラ大学図書館やスコットランド国立図書館、オークニー諸島の図書館や文書館へ赴いて収集・分析した多くの資料を活用した。

(2) アダム・スミスの道徳哲学の基礎にあるテイストの言語についての英語論文 ‘A

Language of Taste in the Moral Philosophy of Adam Smith’ を、*The Kyoto Economic Review* に出版した。この論文を踏まえて、2 回の研究報告を行い、スミスの倫理学における感情についての議論や、経済学における価値や価格についての議論の記述を支えたテイストの言語が、ストア哲学とキケロを起源として構成されていくプロセスについて、最初の研究成果を発表できた。「スコットランド啓蒙の経済思想の歴史的背景と特質」のなかで、従来あまり触れられることのなかった側面を取り上げることができた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
(理由)

科研費応募内容ファイルに記載した研究計画と、各年度の交付申請書に記載の研究実施計画に沿って、ほぼ予定通りに研究成果を学会発表・論文の形で公表してきた。

4. 今後の研究の推進方策

(1) トマス・ヘップバーンの著書『オークニー諸島の貧困』の研究については、海外学術誌に英語論文を投稿し、査読・修正まで完了した。正式に受理されれば、校正・出版を残すのみである。

(2) 今後はアダム・スミス研究に重点的に取り組む予定である。2011 年度の 2 回の海外研究発表を皮切りに、数回の研究発表を重ね、3 本の英語論文を執筆する計画を立てている。

これらを基に、研究課題である「スコットランド啓蒙の経済思想の歴史的背景と特質」の明確化を念頭に、英語によるスミス研究の単著を出版することが、最終目標である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

①古家 弘幸「アダム・スミスとストア哲学—キケロ『カトー』から商人地主像へ」『イギリス哲学研究』(日本イギリス哲学会) 第 34 号 (2011 年 3 月): p. 144-5. 査読有

②古家 弘幸「最果ての啓蒙—トマス・ヘップバーンの経済思想と 18 世紀オークニー諸島 (1)(2)」『経済学論究』第 64 巻第 3 号 (2010 年 12 月): pp. 179-203; 第 64 巻第 4 号 (2011 年 3 月): pp. 139-58. 査読有

③Hiroyuki Furuya, 'A Language of Taste in the Moral Philosophy of Adam Smith', *The Kyoto Economic Review*, Volume 79, Issue 1 (June 2010): pp. 40-65. 査読有

[学会発表] (計 8 件)

①Hiroyuki Furuya, 'The Pundlar Process and Eighteenth-Century Orkney', The University of Reading Early Modern Studies Conference, 'Controversy, Protest, Ridicule, Laughter, 1500-1750', Session 4.1: 'Political and religious controversy in Scotland, 1660-1750', the Palmer Building, Early Modern Research Centre, University of Reading (9-11 July, 2010).

②Hiroyuki Furuya, 'Thomas Hepburn and Eighteenth-Century Orcadian Economy: the Moderate Economic Thought of Edinburgh Reconsidered', The 14th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 'The Practices of Economists in the Past and Today', Session B.6: 'British economists in the 18th century', The Amsterdam School of Economics, University of Amsterdam, The Netherlands (25-27 March, 2010).

[図書] (計 2 件)

[その他]

研究成果データベース

<http://jglobal.jst.go.jp/public/20090422/200901007328533106>

所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページ

<http://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/teacher/1050039.pdf>

http://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/teacher_ichiran.php?ID=1050039&FACID=8A&year=2011